

感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2023年第31週 (7月31日～8月6日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2023年第1週から)

疾患名	報告数	累積
[1類]		
(報告なし)		
[2類]		
結核	259	8141
[3類]		
コレラ		1
細菌性赤痢		23
腸管出血性大腸菌感染症	115	1735
腸チフス	2	26
パラチフス		6
[4類]		
E型肝炎	7	361
A型肝炎	1	33
エキノкокクス症		9
エムボックス ¹⁾		185
オウム病		6
回帰熱		10
コクシジオイデス症		1
重症熱性血小板減少症候群	6	104
チクングニア熱		2
つつが虫病		108
デング熱	2	53
日本紅斑熱	15	210
ブルセラ症		1
マラリア	2	10
ライム病		15
レジオネラ症	34	1260
レプトスピラ症		8
[5類]		
アメーバ赤痢	7	296
ウイルス性肝炎 ²⁾	1	153
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ³⁾	33	1068
急性弛緩性麻痺 ⁴⁾	2	37
急性脳炎 ⁵⁾	13	325
クリプトスポリジウム症		5
クロイツフェルト・ヤコブ病	5	88
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	18	504
後天性免疫不全症候群	10	575
ジアルジア症		28
侵襲性インフルエンザ菌感染症	7	327
侵襲性髄膜炎菌感染症		10
侵襲性肺炎球菌感染症	24	1076
水痘 (入院例に限る)	4	231
梅毒	202	8950
播種性クリプトコックス症	3	105
破傷風	4	62
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	78
百日咳	18	555
風しん	2	11
麻疹		22
薬剤耐性アシネトバクター感染症		11

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ ⁶⁾	7090	1.44
新型コロナウイルス感染症	77937	15.81
RSウイルス感染症	5854	1.87
咽頭結膜熱	1993	0.64
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3864	1.23
感染性胃腸炎	9722	3.10
水痘	305	0.10
手足口病	3815	1.22
伝染性紅斑	43	0.01
突発性発しん	848	0.27
ヘルパンギーナ	9581	3.06
流行性耳下腺炎	194	0.06
急性出血性結膜炎	10	0.01
流行性角結膜炎	373	0.54
細菌性髄膜炎 ⁷⁾	14	0.03
無菌性髄膜炎	18	0.04
マイコプラズマ肺炎	20	0.04
感染性胃腸炎 (ロタウイルス) ⁸⁾	1	0.00
インフルエンザ (入院患者)	129	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	↓	鹿児島、宮崎、福岡
新型コロナウイルス感染症	↓	佐賀、長崎、宮崎
RSウイルス感染症	↓	山形、富山、高知
咽頭結膜熱	↑	大阪、福岡、奈良
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	鳥取、奈良、福岡
感染性胃腸炎	↓	大分、石川、宮崎
手足口病	↓	新潟、島根、宮崎
伝染性紅斑	↓	岡山、岩手、静岡
ヘルパンギーナ	↓	山形、岩手、北海道
流行性耳下腺炎	↑	群馬、香川、長野、大分
マイコプラズマ肺炎	↑	長野、山口、静岡

◆デング熱 (バングラデシュ人民共和国)

2023年1月1日～8月7日に、保健家族福祉省 (MOHFW) により、327人の関連死亡例を含む合計6万9483人のデング熱症例が報告された (致死率は0.47%)。6月下旬から患者が急増し始め、7月30日現在、合計7978人の患者と47人の死亡者が報告されている。

※第30週のデータはこちらをご覧ください。
<https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/idwr/IDWR2023/idwr2023-30-31.pdf>

